

都市再生協議会 第1回会合 議事概要

1 会合概要

開催日時：令和7年8月19日（火）10：00～12：00

開催場所：今治市みなと交流センター「はーばりー」1階 みなとホール

開催目的：今治市中心市街地グランドデザインに基づく都市再生に向けた議論

主なテーマ：ネウボラ拠点施設、複合庁舎整備、MICE機能の導入、広小路の再整備、
港湾・観光振興、商店街再生、大学との連携・人材育成

2 発言概要

（1）中心市街地グランドデザインについて

- ・グランドデザインは市民とともに3～4年かけ策定。
- ・市長と早期実現の必要性を共有。
- ・計画全体は長期だが、社会実験や工事を通じて、今年・来年から市民参画を進めるべき。
- ・協議会で市民を巻き込みながら事業を進める方策を議論したい。
- ・過去の計画が実現に至らなかった経緯を指摘。
- ・ターゲット設定が重要。

（2）ネウボラ拠点施設について

- ・ネウボラ拠点施設は18歳までを対象とする多機能複合施設。
- ・子育て支援、地域交流、検診・保健指導などを包含。
- ・予算制約やMICEとの整合が課題。市民ファーストで柔軟に検討継続。

（3）複合庁舎整備について

- ・市役所・県支局庁舎とも耐震性の課題あり。
- ・今治市と連携した複合庁舎整備の可能性を引き続き検討。

（4）MICE機能の導入について

- ・MICE機能は中心市街地に必要。周辺の都市機能や駐車場、アクセス性を考慮すると旧日吉小学校跡地を主たる候補地とし、分散型施設が望ましい。
- ・バリシップ拡大には十分な会場面積が必要。海外事例を参考にすべき。
- ・バリシップの拡大、外国人技能者との共生、英語教育の強化を要望。

（5）広小路の再整備について

- ・広小路整備の具体像を確認したい。落ち葉等の問題を指摘。
- ・広小路再整備の方向性は、歩行者中心の空間形成。
- ・回遊性向上のため歴史資源や自転車ネットワークとの連携が必要。
- ・交通量は2車線で対応可能と思われる。
- ・今回の計画は、交通の変化や渋滞等、沿線住民の方々への負担が生じないような整備方針となるよう、社会実験を重ね、議論を深めることが大事。
- ・丹下建築の軸線や市民広場の思想を踏まえており、広小路がグリーンアベニューとなることを高く評価。広小路整備による居住や経済活動への副次的な波及を期

待。

- ・パークアンドライドや電気自動車の周回など、多様な移動手段の整備を提案。
- ・点在する都市機能を線で結ぶことが重要であり、広小路整備を最優先で進めるべき。

(6) 港湾・観光振興

- ・港に誘客の「目玉」が必要。市港湾駐車場が有料は課題。
- ・観光振興と市民生活の調和が重要。
- ・金星川（旧外堀）の歴史的要素を整備に活用すべき。
- ・丹下建築の保存と活用（例として建築系大学の誘致）を提案。

(7) 商店街再生

- ・商店街衰退の主因は代替わりの問題（後継者不在）と新規参入困難。
- ・ハード整備だけでなく、運営する人材・ソフトが不可欠。
- ・行政の柔軟な支援（コンテナハウス活用、学生居住、コンテナショップなど）を提案。

(8) 大学との連携・人材育成

- ・空き家活用や大学連携による新展開に期待。

(9) その他

- ・重要なのは施設整備よりも、市民とともに考えるためのプラットフォームづくり。
- ・中心市街地は他エリアと連携して集客を図る必要あり。
- ・空き地・空き物件（グランドデザインの白地部分）の流動性確保は行政課題。
- ・将来的に中心市街地に居住空間を整備することも重要。